

病害会場 (3階 ザ・テラスルーム)

午前の部 9:30~11:45

- 1 宮崎県における稲こうじ病に対する銅剤の散布適期および出穂期の異なる品種と発病の関係
9:30 ○日高春美¹・寺本敏¹・松浦明¹・黒木修一¹・押川純二¹・松浦聡司²・森山あゆみ¹
(¹) 宮崎総農試, (²) 現西諸県農林振興局)
- 2 気温上昇条件下におけるイネ紋枯病の発病程度の推定について
9:45 ○井上博喜・川上 颯・藤原和樹・園田亮一・宮坂 篤 (九州沖縄農研)
- 3 2016年の九州地域における飼料用米品種の病害発生について
10:00 ○園田亮一・井上博喜・川上 颯・宮坂 篤 (九州沖縄農研)
- 4 ダイズに発生する新規ソベモウイルスのDIBA法による検出
10:15 ○大貫正俊・酒井淳一 (九州沖縄農研)
- 5 苗を用いたサツマイモ立枯病抵抗性室内検定法の検討
10:30 ○小林有紀・小林 晃・高田明子¹・岡田吉弘・小柳敦史 (九州沖縄農研・¹) 農研機構本部)
- 6 フィルムの違いによる砂地畑でのサツマイモ立枯病に対するクロルピクリン錠剤の防除効果
10:45 ○米本謙悟・田中昭人・大黒香奈美・村井恒治 (徳島農総技支セ)
- 7 土壌中からのサトイモ乾腐病菌 (萎凋病菌) のDNA抽出法と定量PCR法の確立
11:00 ○鬼束耕治・中村正幸・岩井 久 (鹿児島大農)
- 8 農業施用の有無を利用したキャベツ根こぶ病の簡易診断法の検討
11:15 ○湯田達也・樋口康一¹・尾松直志 (鹿児島農総セ・¹) 鹿児島曾於畑かんセ)
- 9 アブラナ科野菜の根こぶ病に対する石灰窒素施用と土壌還元消毒による防除効果
11:30 ○鍛冶原寛・出穂美和・吉岡陸人・角田佳則 (山口県農林総セ)

-----昼 食-----

役員会 (2F 富士の間 12:00~13:00) 総会 (3F ザ・テラスルーム 13:05~13:25)

午後の部 13:30~16:30

- 10 カブモザイクウイルス侵入時期の年代推定: 長崎産の一分離株を例として
13:30 ○八坂亮祐・大島一里 (佐賀大農・鹿児島大院連農)
- 11 2016年の佐賀県におけるタマネギべと病の二次伝染時期の推定
13:45 ○菖蒲信一郎・山口純一郎 (佐賀農業セ)

- 12 長崎県内におけるイチゴ炭疽病菌 *Colletotrichum gloeosporioides* 種複合体の再同定
14 : 00 ○江頭桃子・寺本健・中村吉秀（長崎農技セ）
- 13 イチゴ新品種‘久留米 65 号’において認められた複数のイチゴ炭疽病菌株に対する抵抗性の
差異
14 : 15 ○遠藤（飛川）みのり・森脇丈治（九州沖縄農研）
- 14 キク白さび病発病抑制のための温湯浸漬処理によるキクへの障害発生の品種間差および温湯
へ農薬を加用した場合の同病発病抑制効果
14 : 30 ○原田陽帆¹⁾・白山竜次¹⁾・郡山啓作（¹⁾鹿児島農業総セ花き・²⁾北薩地域振興局）
- 15 大分県のホオズキにおけるウイルス病の発生実態
14 : 45 ○米田恵美・富高保弘¹⁾・兒玉泰^{2)*}・石松敏樹（大分農林水研花き・¹⁾九州沖縄農研・
²⁾大分園芸振興室・*現：大分中部振興局）
- 16 ホオズキに感染するトバモウイルス 2 種を検出するための RIPA 法の開発
15 : 00 ○富高保弘・米田恵美¹⁾（九州沖縄農研・¹⁾大分農林水研花き）
- 15 : 15 -----休憩-----
- 17 キンカンに発生した 2 種の *Colletotrichum* 属菌による炭疽病
15 : 30 ○安部睦実・福元智博¹⁾・中村正幸・岩井 久（鹿児島大農・¹⁾鹿児島農総セ）
- 18 アテモヤに発生した *Lasiodiplodia theobromae* による軸腐病(新称)
15 : 45 ○高野 翔・福元智博¹⁾・中村正幸・岩井 久（鹿児島大農・¹⁾鹿児島農総セ）
- 19 移動式大型スプリンクラーによる露地ビワ主要病害虫の省力的防除
16 : 00 ○中村吉秀・内川敬介・副島康義・古賀敬一¹⁾・山下次郎（長崎農技セ・¹⁾長崎農産園
芸課）
- 20 殺虫剤と殺菌剤の交互散布によるマンゴー果実病害の防除
16 : 15 ○安次富厚・山城麻希・大城 篤（沖縄農研セ）
- 16 : 30 -----講演会終了-----

虫害第1会場（2階 光の間 A）

午前の部 9：30～12：00

- 1 飢餓条件および代替餌・アブラムシの存在が飛ばないナミテントウ“トバテン”の株上での行動に及ぼす影響
9：30 木下智章（佐賀大・農）・安達修平（鹿大院・連合農学）・世古智一（農研機構西日本農研）・○徳田 誠（佐賀大・農）
- 2 ヒラタアブ類のパッチ選択キューを探る
9：45 ○柿元一樹・尾松直志（鹿児島農総セ）
- 3 カメモシタマゴトビコバチの寄主利用様式
10：00 ○太田一樹・大野和朗（宮崎大農）
- 4 熊本におけるオクラのワタアブラムシとその土着天敵類の発消長
10：15 ○水谷信夫・北村登史雄（農研機構九州沖縄農研）・柿元一樹・尾松直志・井上栄明（鹿児島農総セ）・大田泉・浦入千宗（農研機構野茶花き部門）・安部順一郎（農研機構西日本農研）・大野和朗（宮崎大農）
- 5 秋作バレイショ栽培期間の植栽に適したインセクタリアープラントの探索
10：30 ○福吉賢三（長崎農技セ）
- 6 有機栽培茶園での生物多様性の向上は自然制御につながるのか？
10：45 ○大野和朗・ADEMA Barry・吉永英樹・長友沙樹・冽鎌優樹・秋山空隆（宮崎大農）
- 7 チャ園場における殺虫剤少量散布による天敵類の温存効果の確認—クワシロカイガラムシとその天敵—
11：00 ○河内雅弘・坂巻祥孝・津田勝男（鹿児島大農）・鹿子木聡（鹿児島農総セ茶業部）
- 8 殺虫剤少量散布チャ園のクモ類温存効果とクモ類の捕食特性
11：15 ○鶴祐大朗・坂巻祥孝・津田勝男（鹿児島大農）・鹿子木聡（鹿児島農総セ茶業部）
- 9 南さつま市知覧町のチャ園場に定着したチリカブリダニの発消長と捕食特性
11：30 ○猪口真帆実・坂巻祥孝・津田勝男（鹿児島大農）・鹿子木 聡（鹿児島農総セ茶業部）
- 10 アスパラガスにおける天敵保護資材を用いたスワルスキーカブリダニ放飼の防除効果
11：45 ○植松綾子・藤友加里・陣野泰明・寺本健（長崎農技セ）

----- 昼 食 -----

役員会（2F 富士の間 12：00～13：00）総会（3F ザ・テラスルーム 13：05～13：25）

午後の部 13 : 30~17:00

- 11 タマゴコバチ類のオオタバコガ卵における寄生率に対する各種殺虫剤の影響
13 : 30 ○北村登史雄（農研機構九州沖縄農研）・飯田博之・河野勝行・武田光能（農研機構
 野茶花き部門）
- 12 カンゾウ圃場のハダニ防除に散布される気門封鎖型殺虫剤が土着カブリダニ類に与える影響
13 : 45 ○松比良駿・坂巻祥孝・津田勝男（鹿児島大農）
- 13 半促成長期どり栽培アスパラガスにおけるハダニ類の発消長と殺ダニ剤に対する感受性
14 : 00 ○衛藤友紀・菖蒲信一郎（佐賀農業セ）
- 14 長崎県のブロッコリーから採集したコナガ个体群における 11 薬剤に対する感受性
14 : 15 ○柴田真信（長崎防除所）・上杉龍士（農研機構中央農研）・平山千穂（長崎防除所）
- 15 福岡県の施設ネギで発生したシロイチモジヨトウに対する数種薬剤の殺虫効果
14 : 30 ○柳田裕紹・桐明紗織（福岡農林試）
- 16 ハスモンヨトウに対する各種薬剤の殺虫効果とその特徴
14 : 45 ○林川修二（鹿児島農総セ）・小山田耕作（南薩地域振興局）・古園郁郎（始良・伊佐
 地域振興局）
- 17 福岡県内のイチゴに寄生するナミハダニ黄緑型 *Tetranychus urticae* Koch (green form) に
 対する数種薬剤の殺虫効果
15 : 00 ○桐明紗織・柳田裕紹（福岡農林試）
- 18 佐賀県のイチゴほ場で採集したナミハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性
15 : 15 ○平田真紀子・衛藤友紀（佐賀農業セ）
- 19 イチゴ品種「ゆめのか」「さちのか」におけるナミハダニ黄緑型の発育および増殖率の差異
15 : 30 ○藤 友加里・植松 綾子・寺本 健（長崎農技セ）
- 20 長期取りイチゴにおける天敵を利用したアザミウマ類及びハダニ類防除について
15 : 45 ○岩本哲弥・本田善之（山口農林総セ）・河村俊和（柳井農林）
- 21 イチゴ果実加害アザミウマ類に対する赤色ネットのハウス侵入阻害効果
16 : 00 ○寺本 健・藤 友加里（長崎農技セ）

虫害第2会場（2階 光の間 B）

午前の部 9:30~12:00

- 22 ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯ウイルスのイネ科雑草・牧草への感染性
9:30 ○真田幸代、松倉敬一郎、藤井智久、松村正哉（農研機構九州沖縄農研）
- 23 2016年の山口県におけるセジロウンカの多発要因
9:45 ○中川浩二（山口農林総セ）
- 24 LEDを光源とした予察灯の海外飛来性イネウンカ類2種に対する誘引性能
10:00 ○鍵野優子・井手真奈美（長崎防除所）・藤田和久（光産業創生大学院大）・屋良一寿・屋良武信（興南施設管理（株））・平江雅宏（中央農研）
- 25 緑色LED光源のライトトラップによるイネウンカ・ヨコバイに対する誘引特性
10:15 ○松比良邦彦・尾松直志（鹿児島農総セ）・藤田和久（光産業創成大学院大）・屋良一寿・屋良武信（興南施設管理（株））・平江雅宏（中央農研）
- 26 熊本県におけるウンカシヘンチュウの探索
10:30 ○吉田睦浩・松村正哉・木村貴志（農研機構九州沖縄農研）
- 27 2015年鹿児島県奄美大島でのミカンコミバエ再侵入の飛来解析
10:45 ○大塚彰（農研機構革新工学セ）・松村正哉（農研機構九州沖縄農研）・中村浩昭（鹿児島県農総セ）
- 28 根絶から36年 奄美大島におけるミカンコミバエ種群の再発生と根絶
11:00 ○中村浩昭（鹿児島農総）・野島秀伸（鹿児島県大島支庁）
- 29 沖縄県におけるナスミバエ *Bactrocera latifrons* の発生状況
11:15 ○谷口昌弘・佐渡山安常・大田守也（沖縄防技セ）
- 30 サトウキビトラッシュ散布がアリモドキゾウムシの加害や雑草生育を抑制する効果
11:30 ○山下伸夫（農研機構九州沖縄農研）
- 31 微小害虫による温州みかん果皮障害の軽減
11:45 ○楠本公治（北筑前普指セ）・山根かおり（北筑前普指セ）・森 秀一（JA 粕屋）

----- 昼 食 -----

役員会（2F 富士の間 12:00~13:00）総会（3F ザ・テラスルーム 13:05~13:25）
午後の部 13:30~17:00

- 32 佐賀県におけるカンキツのアザミウマ類の防除時期の検討
13:30 ○口本文孝・白石祥子・野口真弓（佐賀果樹試）

- 33 小規模平坦茶園に対応した少量農薬散布機の基本的性能とその防除効果
13 : 45 ○古澤 慧・佐藤邦彦（宮崎総農試茶業支場）・鹿子木聡（鹿児島農総セ）・今西浩二・里中一富（松元機工（株））
- 34 畦内土壌中での薬剤分布を把握するための蛍光塗料の利用
14 : 00 ○福田 健・重水 剛・森 清文（鹿児島農総セ大隅）
- 35 ニセフクロセンチュウの遺伝的多型ならびにサツマイモ根への加害性
14 : 15 ○中江和紀・吉賀豊司（佐賀大）
- 36 カーバムナトリウム塩液剤による省力的線虫防除方法の検討
14 : 30 ○鈴木智範（大分農林水研農業）
- 37 イモグサレセンチュウのニンニクでの増殖に及ぼす糸状菌の影響
14 : 45 ○原口俊輔・梶原充史・吉賀豊司（佐賀大学）
- 38 ダイズのアオクサカメムシやミナミアオカメムシの誘引植物の探索とおとり防除の可能性について
15 : 00 ○本田善之・岩本哲弥（山口農林総セ）
- 39 分類群特異的な成長メカニズム
15 : 15 ○長峯 啓佑（南九州大）・星崎 杉彦（東大院）・粥川 琢巳（農研機構）・石川 幸男（東大院）・新谷 喜紀（南九州大）
- 40 野生宿主植物からダイコンへの TuMV の伝搬時期と広食性・狭食性アブラムシが果たす役割
15 : 30 ○安達修平（鹿大院・連合農学）・尋木優平・吉田一貴（佐賀大・農）・八坂亮祐（鹿大院・連合農学）・大島一里（佐賀大・農）・徳田誠（鹿大院・連合農学）